様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第１面）

産業廃棄物処理計画書

令和7年　　6月　11日

高松市長
大西　秀人　　殿

提出者
住　所　香川県高松市上林町788番地6
氏　名　株式会社　エフワン建設
代表取締役　藤澤正二
（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）
電話番号　　087-889-8406

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第９項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社エフワン建設
事業場の所在地	高松市上林町788番地6
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	土木工事業
②事業の規模	元請完成工事高￥465,692,700 -（令和6年6月1日～令和7年5月31日）
③従業員数	19　人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	1. 産業廃棄物処理委託契約書締結 2. マニフェスト発行 3. 産業廃棄物の発生 4. 自社で運搬又は契約を締結した運搬会社に処分場への運搬を委託 5. 契約を締結した処分会社にて処理

（日本産業規格　A列４番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

（管理体制図）

役職	氏名	役割
代表取締役	藤澤　正二	産業廃棄物処理責任者
マニフェスト管理者	藤澤　貴代	交付したマニフェストの管理と、市への報告
現場責任者	各工事現場代理人	産業廃棄物の種類ごとの契約書、マニフェストの作成、現場作業員に分別の徹底を周知し、産業廃棄物とマニフェストを確実に処分業者へ引き渡す

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】							
②	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	木くず	廃プラ	混合		
	排　出　量	1271.98 t	4.67 t	16.29 t	0.42 t	3.13 t		
	（これまでに実施した取組） 受注した工事での排出量を予定よりも増やさないように心掛けている。							
②計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	木くず	廃プラ	混合		
	排　出　量	1000 t	4.0 t	15.0 t	0.3 t	3.0 t		
	（今後実施する予定の取組） 今後も現状で取り組んでいることを継続し、廃棄物の種類によって、処分業者の検討を計り、再生材の利用促進に努める。							

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 種類により適切に分別しています。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 引き続き適切な分別を徹底します。

<table>
<tr><td colspan="4">自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="4">①現状</td><td colspan="3">【前年度（　　年度）実績】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>自ら再生利用を行った
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">②計画</td><td colspan="3">【目標】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>自ら再生利用を行う
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組）</td></tr>
<tr><td colspan="4">自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="5">①現状</td><td colspan="3">【前年度（　　年度）実績】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>自ら熱回収を行った
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>自ら中間処理により減量した
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">②計画</td><td colspan="3">【目標】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>自ら熱回収を行う
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>自ら中間処理により減量する
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組）</td></tr>
</table>

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（　　年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項								
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	がれき類	汚泥	木くず	廃プラ	混合		
	全処理委託量	1271.98 t	4.67 t	16.29 t	0.42 t	3.13 t		
	優良認定処理業者への処理委託量							
	再生利用業者への処理委託量	1271.98 t	4.67 t	16.29 t	0.42 t	3.13 t		
	認定熱回収業者への処理委託量							
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量							
	（これまでに実施した取組） 公共工事で排出した産業廃棄物は全て、中間処理業者または最終処分業者に委託している。							

【目標】

産業廃棄物の種類	その他がれき類	汚泥	木くず	廃プラ	混合		
全処理委託量	1000 t	4.0 t	15.0 t	0.3 t	3.0 t		
優良認定処理業者への処理委託量							
再生利用業者への処理委託量	1000 t	4.0 t	15.0 t	0.3 t	3.0 t		
認定熱回収業者への処理委託量							
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量							

（今後実施する予定の取組）

今後も業者の処分内容を確認し、委託先を選定する。再資源化できるよう分別し、工事現場より排出することを心掛ける。

※事務処理欄

備考

１　前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに１枚作成すること。

２　当該年度の６月30日までに提出すること。

３　「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

⑴①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

⑵②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

⑶④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

４　「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

５　「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第６条の11第２号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の３の３第１項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

６　それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が３以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

７　※欄は記入しないこと。